

麻布大学ティーチング・ポートフォリオ

所属 獣医保健看護学科

職階 教授

氏名 栗林尚志

麻布大学では、教育研究活動その他大学の諸活動を恒常的に自己点検・評価し、その結果を検証して改善に結び付けることにより、教育の質保証を行う観点から、各教員が『ティーチング・ポートフォリオ』を作成しています。ティーチング・ポートフォリオの構成及び更新サイクルは以下のとおりです。

1. 教育の責任・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年
2. 教育の理念・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年
3. 教育の方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年
4. 教育の方法の改善・向上を図る取組・・・・・・・・ 毎年
5. 学生の授業評価アンケート結果に基づく改善・向上の取組・・・毎年
6. 学生の学修成果向上を図る取組・・・・・・・・・・・毎年
7. 指導力向上のための取組・・・・・・・・・・・・・・・3年
8. 今後の目標・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3年

1. 教育の責任

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

臨床薬理学・薬理学（4M配当）は、臨床検査技術学科で初めて開講された科目である。国家試験対策というよりは、卒業後にチーム医療に参画した場合に薬剤師などの他の医療従事者が話す薬物動態学、製剤学に関する用語を理解させることに注力した。その後、薬効領域別に作用機序、副作用、用法・用量などを講義した。それにより、他の医療従事者が説明する専門外である薬剤に関する基本的な内容が理解できるように心掛けた。これは、獣医保健看護学科での動物薬理学Ⅰにおいても近い方針で講義を行った。この科目では薬理学、薬物動態学、製剤学の基本的な事項を理解させ、臨床現場で獣医師が処方する薬剤の用法・用量が理解できる知識を身につけさせるべく講義した。これにより薬剤の特性を理解できる学力を身につけ、動物薬理学Ⅱで各領域での薬剤を学び、さらに国家試験対策となるよう心掛けた。感染症学での免疫学領域では、この科目での学びが臨床検査学及び実習で学ぶ検査の原理が理解できるような内容に心掛けた。さらに、国家試験での出題傾向を鑑みて免疫学の基本的な知識が修得できるように講義を行った。

科目名	学科・専攻	単位種別	配当年次	受講者数(単位:人)
臨床薬理学	臨床検査技術学科	必修	4	72
薬理学	臨床検査技術学科	必修	4	19
動物形態機能学・臨床検査学実習Ⅱ	獣医保健看護学科	必修	2	72
動物臨床検査学	獣医保健看護学科	必修	2	72
動物感染症学Ⅱ	獣医保健看護学科	必修	2	72
動物薬理学Ⅰ	獣医保健看護学科	必修	2	72
卒業論文	臨床検査技術学科	選択	4	4
生体防御学特論	環境保健科学専攻（博士前期課程）	選択	1	1

2. 教育の理念

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年4月

担当した実習は国家試験につながる科目であるため、教員が交代したも実習が遅滞なく行われるように新たに担当する教員への引継ぎ及び実習内容に不足がないよう実習中もサポートを行う。

3. 教育の方法

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2024年4月

昨年と同様に3年次に配当されている臨床免疫学は、国家試験の出題傾向を鑑みて講義内容を行っている。4年次に配当されている総合臨床検査学演習の講義において国家試験で出題される傾向が高い項目のうち、臨床免疫学で理解できていない、不足している項目を繰り返し講義するようにしている。また、臨床免疫学では、小テストの回数を2回に増やし実施し、定期試験前に慌てて勉強することのないよう普段からの復習を促すように指導した。しかし、小テストの点数が芳しくない学生も多く、最低でも復習を促す更なる方策が必要であると感じている。卒業論文の指導においては、4年次までに課題を抽出し、実験結果を正確に纏め分析し、自分自身で課題を見つけ、解決策を考えられるように指導している。しかし、以前として教員からの指示を待っている姿勢の学生が多く、ゼミ形式以外にも積極的に学生と議論する時間を多くする必要がある。

(1) アクティブ・ラーニングについての取組

無

具体的にアクティブ・ラーニングと呼べる内容には取り組むことができなかった。

(2) ICTの教育活用

有

講義に使用するスライドは規則どおりにAzamoodleに掲示した。講義では、手元のタブレットでスライドに細かい説明を追記し受講する学生が黒板の板書をノートに書くように資料に追記できるようにした。また、この追記したスライドにさらに重要な事項などを強調するように説明を加えAzamoodleに掲示し、復習に活用できるようにした。

4. 教育の方法の改善・向上を図る取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

(1) 教育（授業及び実習等）の創意工夫

B

前述のように復習に活用できるように講義終了後に追記したスライドを掲示した。

(2) 学生の理解度の把握

B

前述したとおり復習に活用できるように講義終了後に追記したスライドを掲示した。また、前週の講義内容を講義冒頭に再度説明するようにした。しかし、受講生がどの程度復習を行っているかを確認することができなかった。そのため、翌週の講義においてGoogle formなどを利用する等の方法で、復習しないと1週間で理解度が低下することを自覚させる学習内容を振り返る試みが必要であり、改善したいと考えている。

(3) 学生の自学自習を促す工夫

B

4.(1)及び(2)に記載したとおりである。

(4) 学生とのコミュニケーション

B

講義終了後に質問された場合には、時間の許す限り疑問点が解決するようにした。時間が足りない場合には、研究室に来るように促し疑問点及び理解できない内容がないように心掛けた。

(5) 双方向授業への工夫

C

講義内容が理解できない場合、あくまで説明が悪いので遠慮なく申し出て欲しいと毎回の講義で呼びかけを行ったが、反応はなく、双方向授業にするには根本的な改善が必要であると感じている。

(6) 国家試験対策の取組（獣医学科・臨床検査技術学科）

該当なし

5. 学生の授業評価アンケート結果に基づく改善・向上の取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

(1) 授業評価アンケート結果の授業への反映

いずれの科目も2025年度に初めて開講した科目であるためアンケート内容を反映していない。

(2) (1)の結果による改善・向上の具体的な成果又は課題

いずれの科目も2025年度に初めて開講した科目であるためアンケート内容を反映していない。

(3) (2)を踏まえた次年度の取組

2025年度の結果を踏まえ2026年度の講義は改善を図りたいと考える。

6. 学生の学修成果向上を図る取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

(1) 現在までの学生の成績向上に資する取組及びその成果並びに今後予定している取組

獣医保健看護学科1期生の科目を担当しているが、まだまだ国家試験を受験するという緊張感がない。毎年度の講義をきちんと学び理解し単位を修得することが国家試験対策の勉強を始めた際に重要になることを理解させる。そのためには、日々のコツコツとした努力が必要であることを3年次で認識させ4年次での国家試験への学びに繋がるようにしたい。

(2) (1)の取組を通じて改善・向上が図られた学生の学修成果並びに当該取組に対して得られた学生及び第三者からの評価又はフィードバック

第三者からの評価を受けていない。

7. 指導力向上のための取組（FD研修参加等）

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

可能な限りFD研修に当日参加した。参加できなかった際には録画を視聴した。

8. 今後の目標

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

国家試験に向けての教育体制を構築する。国家試験問題の分析を行い、臨床検査技師国家試験対策で経験した内容をベースに総合臨床看護学での試験をどうするか、成績不振者への補習授業などの対応策を計画する。しかし、愛玩動物看護師養成校での合格率が軒並み高いことから、高い合格率を得るために必須問題への対策、単に講義する内容を幅広くするだけではなく基礎的な事項を繰り返すのかなど講義内容については慎重に構築する必要があると考える。さらに、将来的には4年次まで進級した学生は、国家試験が合格できるような学力を備えているように各学年の講義を充実させ、4年次では修得した内容をブラッシュアップあせ高い合格率が得られることが必要であると考え。

9. ティーチング・ポートフォリオを作成する際に活用した根拠資料

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

特になし。